

2016 年度

学生調査報告

九州ルーテル学院大学

はじめに

2016 年度より九州ルーテル学院大学 IR 委員会では、学生に対するアンケート調査を実施しています。IR (Institutional Research) とは、教育や学生支援の質の向上や大学運営の改善のために学内データを収集・分析し、具体的に改善施策や方針を提言する活動を指します。

2016 年度学生アンケート調査も IR の一環として、学生の入学理由や本学の修学・生活状況などを把握することで、本学の教育・支援体制を充実させるとともに、本学の運営の質を高めることを目的としています。また、地域の皆さまや学生保護者の皆さまへの説明責任を果たし、皆さまからご意見をいただくために、アンケート結果を公表します。アンケート調査・結果についてご質問やコメントがありましたら、本学広報にメール (koho@klc.ac.jp) でお知らせください。

調査概要

《調査対象者》

2016 年度在学学生 703 名 (内訳: 心理臨床学科 352 名, 人文学科こども専攻児童教育コース 63 名, 人文学科こども専攻保育コース 125 名, 人文学科キャリアイングリッシュ専攻 163 名)。

《調査時期》

2016 年度 11 月下旬から 12 月。

《調査方法》

1～4 年生に同じ内容のアンケートを実施しました。1・2 年生の調査においては、学科・専攻の必修科目の授業の中でアンケートを配布・回収しました。3・4 年生の調査においては、特別研究および卒業研究を担当している教員に配布して、回収を依頼しました。

《回収率》

回答項目によって若干異なりますが、回収率は、在学学生全体で約 82%, 心理臨床学科で 78%, 人文学科児童教育コースで 92%, 人文学科保育コースで 92%, 人文学科キャリアイングリッシュ専攻で 76% でした。かなり高い回収率になり、集計データは本学学生の実態を全体的に理解できるという意味で信頼性の高いものとなりました。

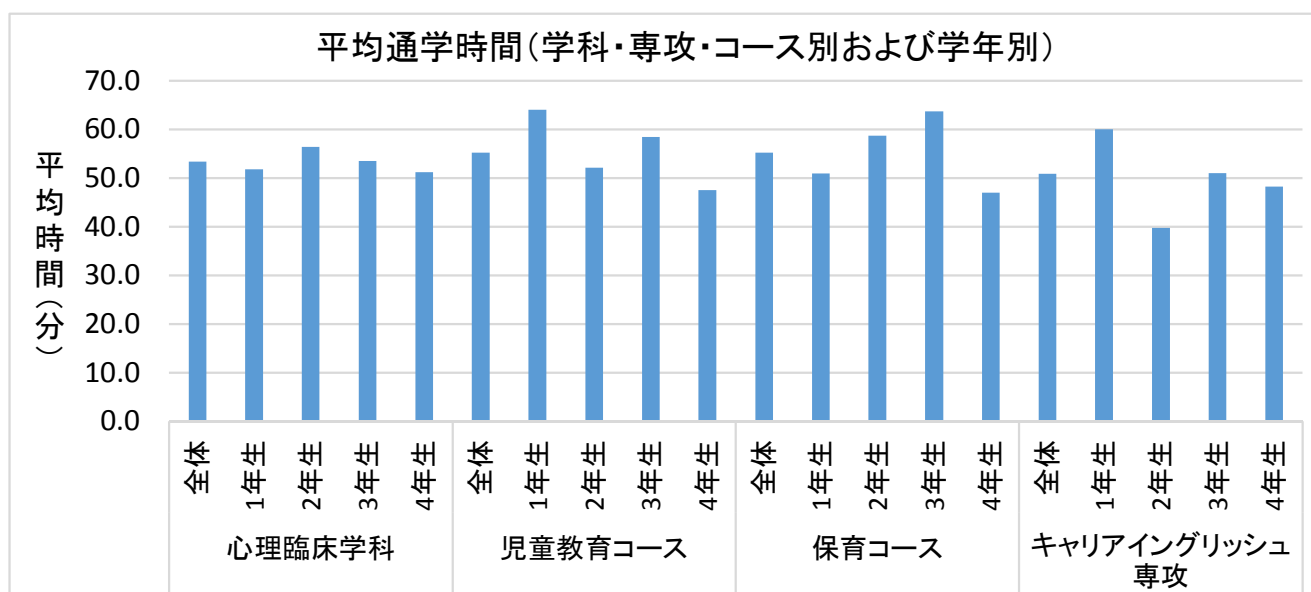
《分析方法》

回答データの基本集計として、在学学生全体、学年ごと、学科・専攻・コースごとに平均値を算出しました。

通学時間

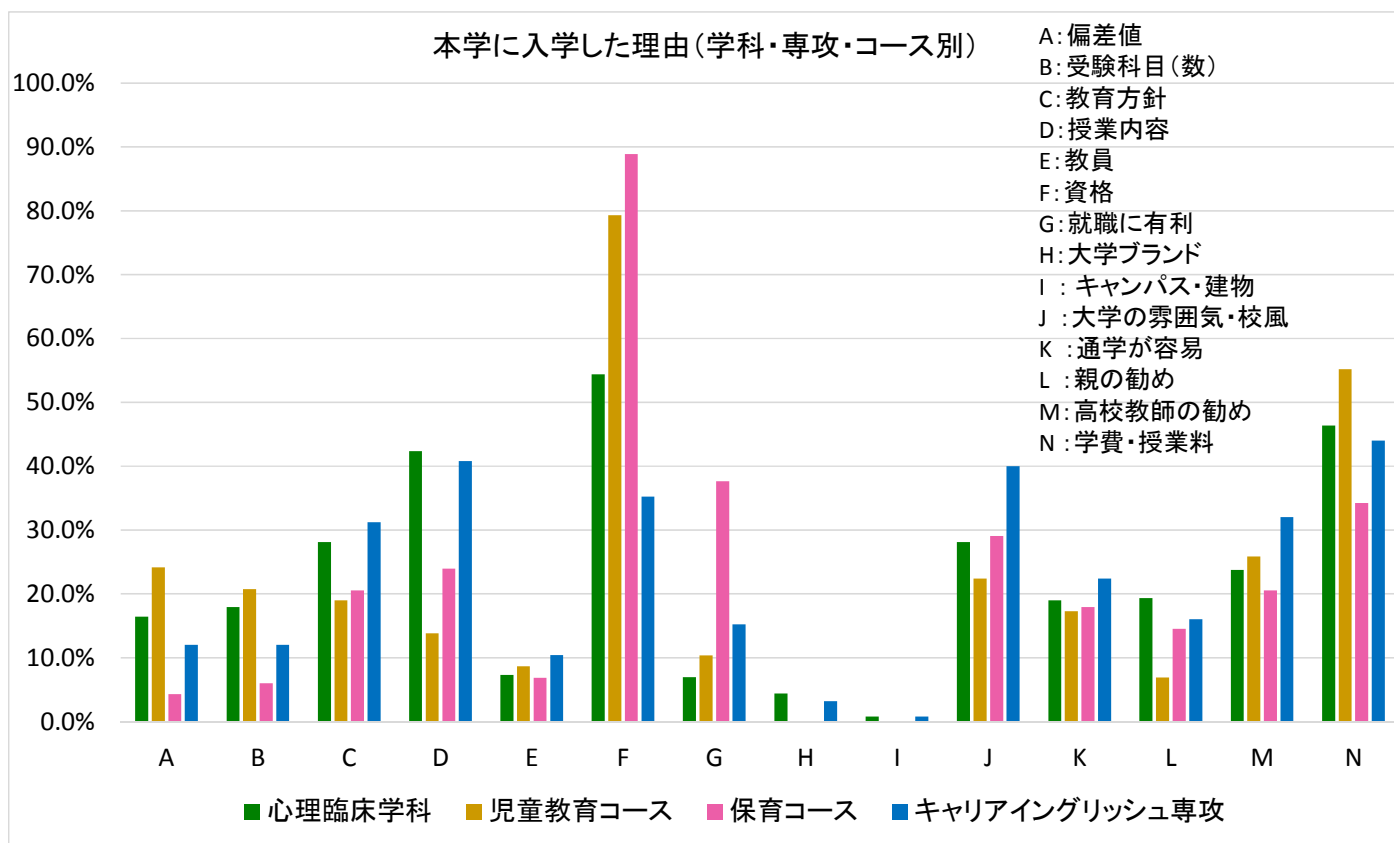
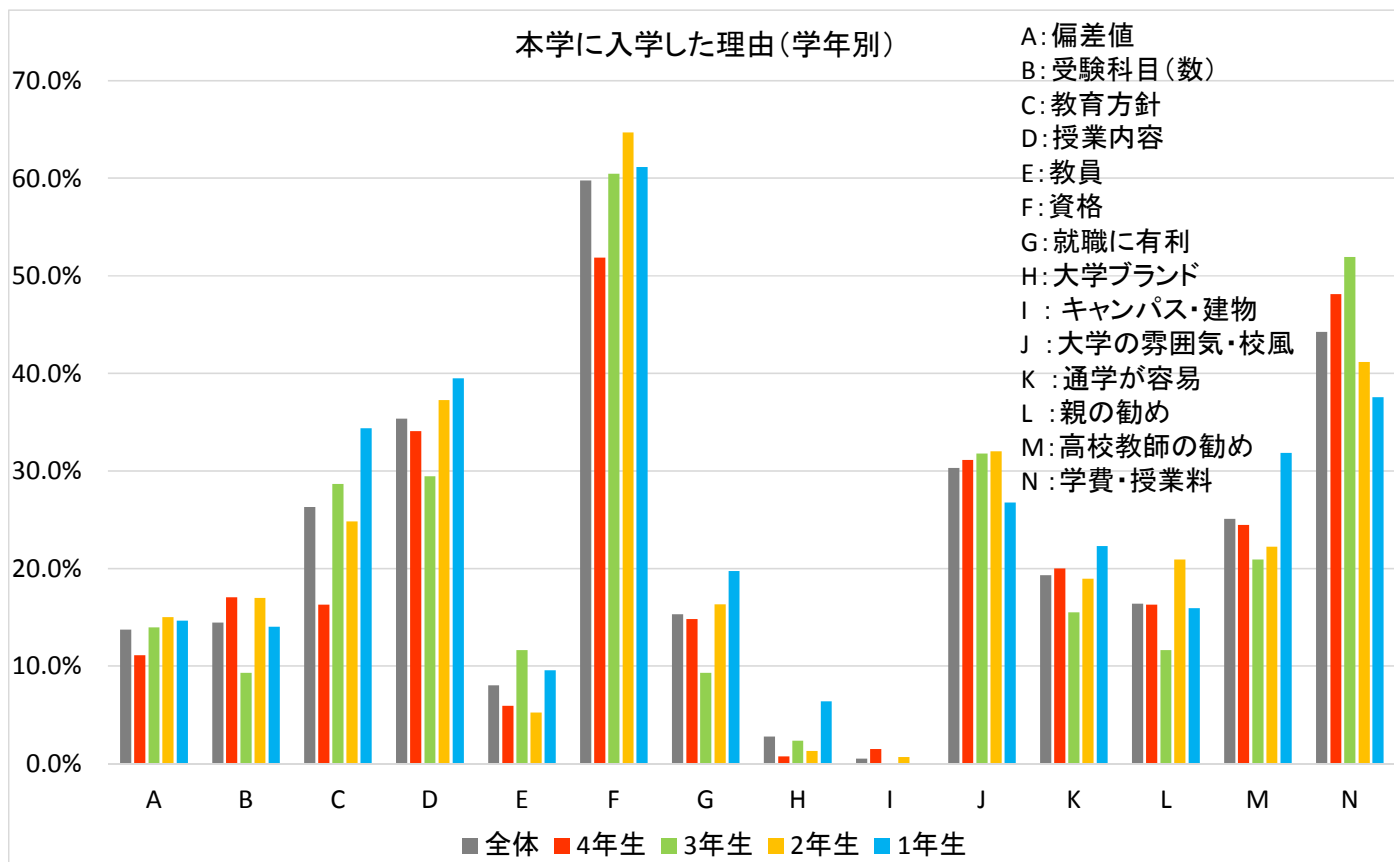
徒歩、自転車、自動二輪、自動車、公共交通機関を使って本学に通うのに合わせてどれくらい時間がかかるかを尋ねました。在学生全体で平均して 53.4 分かかることが明らかになりました。日本学生支援機構の平成 24 年度学生生活調査によれば、東京圏と京阪神地域以外の地方の私立大学に在籍する学生の通学時間平均は 40.4 分で、自宅に住む学生で平均 57.4 分、アパート・下宿に住む学生で平均 15.1 分です。本学の学生の多くが自宅に居住し、通学に多くの時間を割いていることがうかがえます。

以下は、学年ごと、学科・専攻・コースごとの平均通学時間です。



本学入学の理由

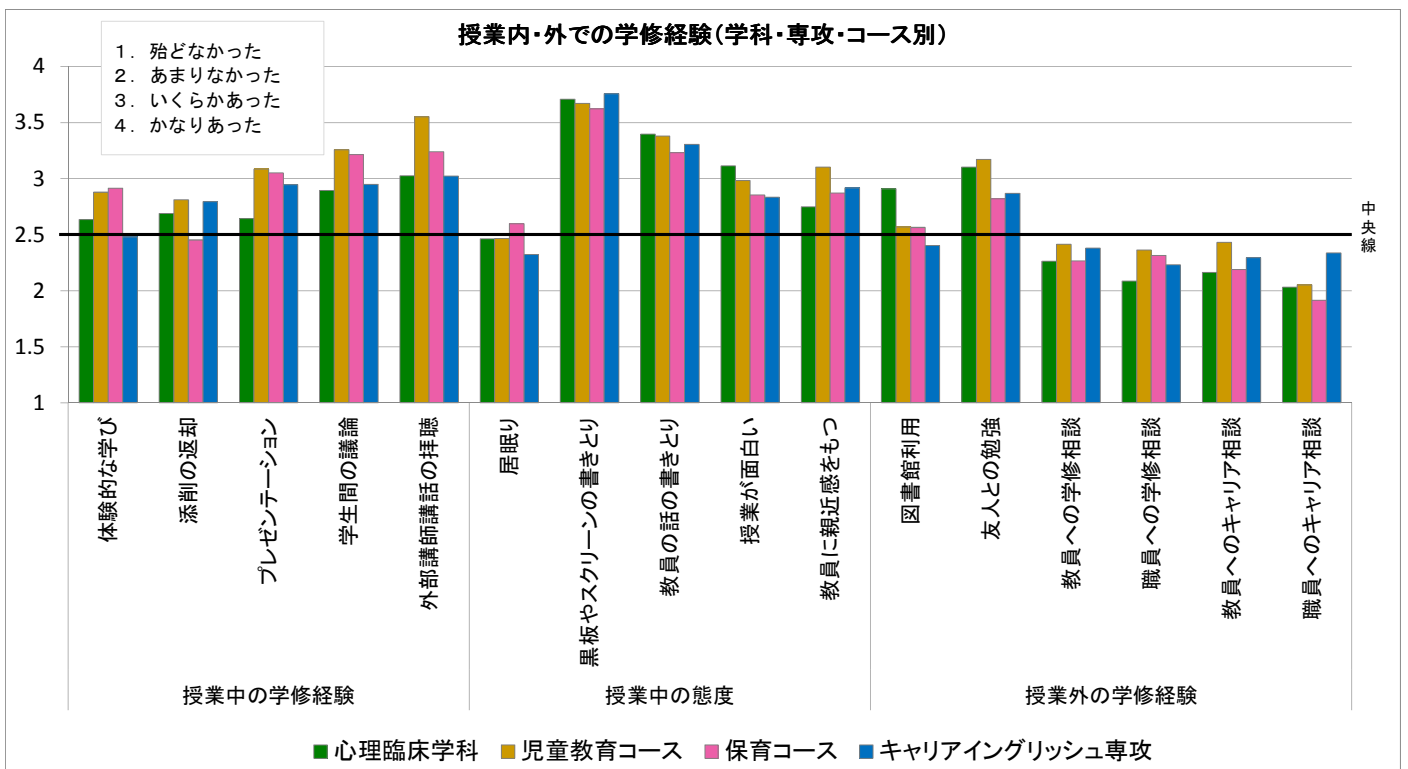
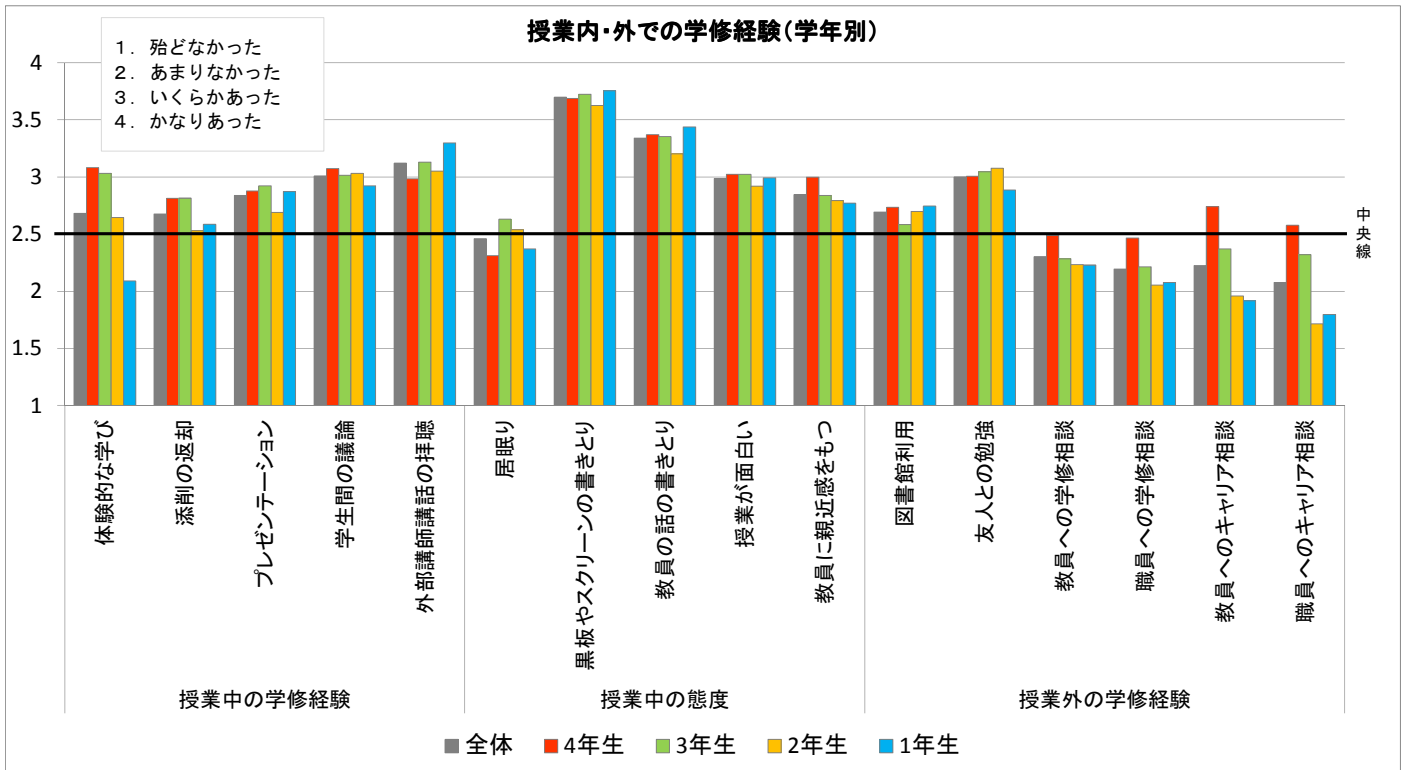
本学入学の理由について用意した 14 項目から複数選択する形で尋ねました。学生の多くが、何らかの資格取得を目指しつつ、リーズナブルな学費で興味ある授業内容を受講できることを理由としているのではないかと考えられます。また、大学の教育方針や雰囲気も本学の学生にとって重要なようです。



学修経験・態度

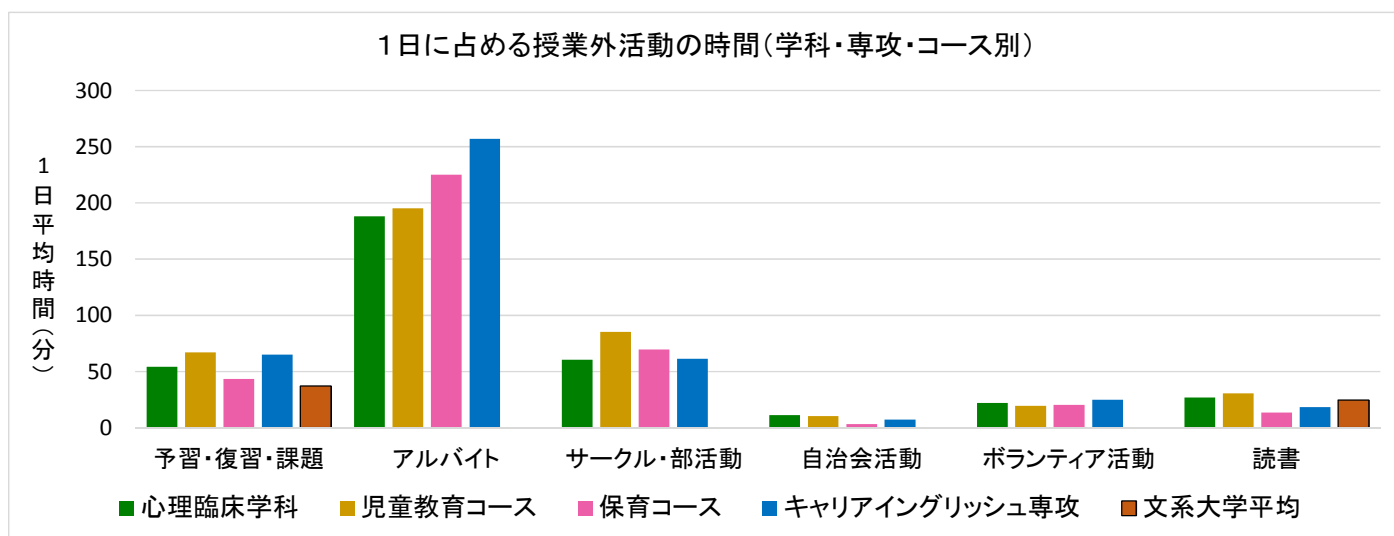
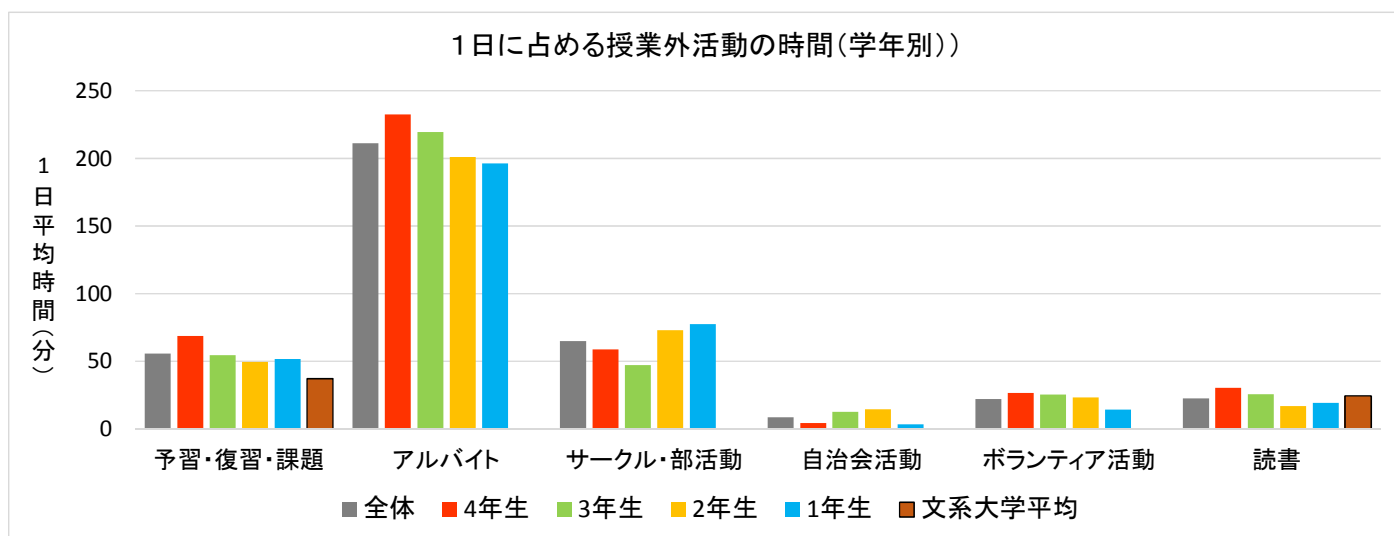
授業での学修経験については、外部講師を招いて講話を聞いて授業内容を深めたり、学生同士のディスカッションや資料に基づくプレゼンテーションを通して意見交換をしたりする機会が多いようです。また、授業中の態度としては黒板やスクリーン上のものや教員の話した内容はよく書きとめているのではないのでしょうか。授業外での学修については、友人とともに勉強したり図書館を利用したりすることが多いようですが、一方で授業以外の時間で教員に質問したり教員と議論したりすることは少ないと思われます。

また、学科・専攻・コースごとに学修態度や学修経験の傾向は多少異なるようです。特に心理臨床学科と児童教育コースの学生は授業外で友人とともに勉強する傾向があり、また心理臨床学科の学生は図書館を利用する傾向が高いようです。その理由については今後の分析が必要です。



授業外の活動時間

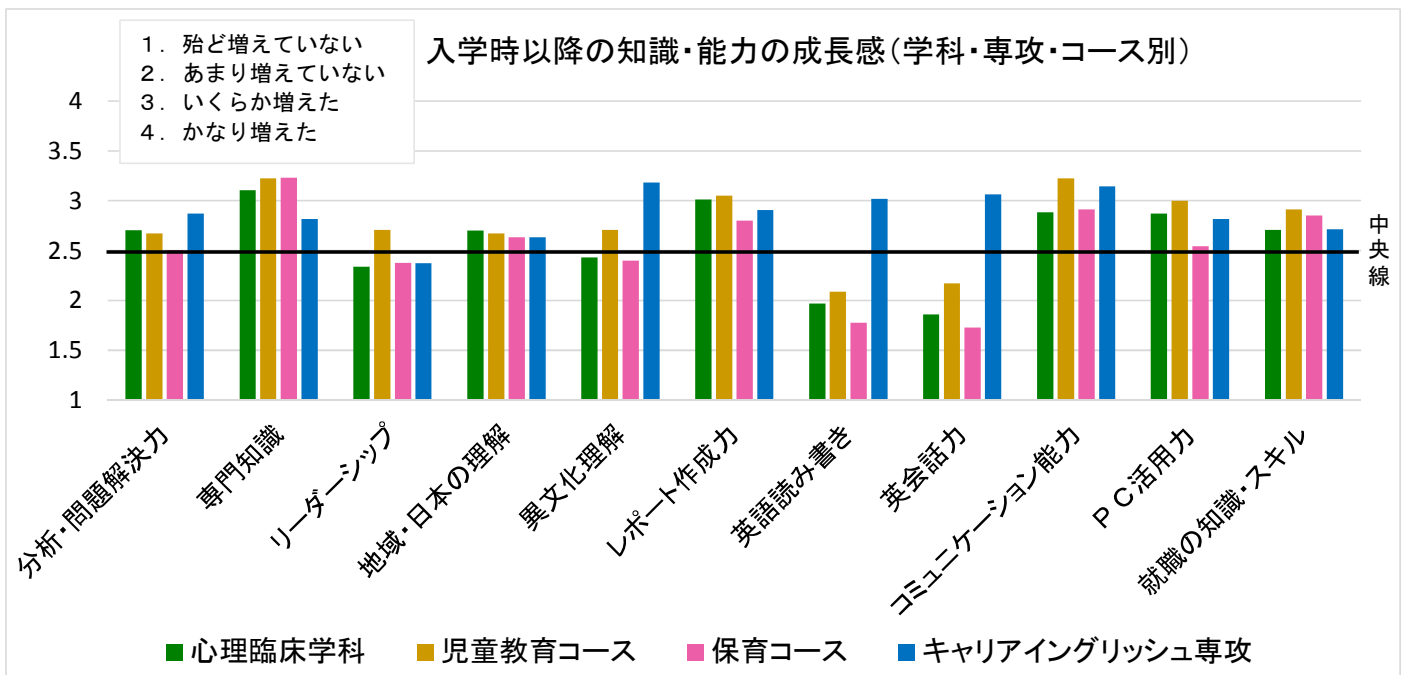
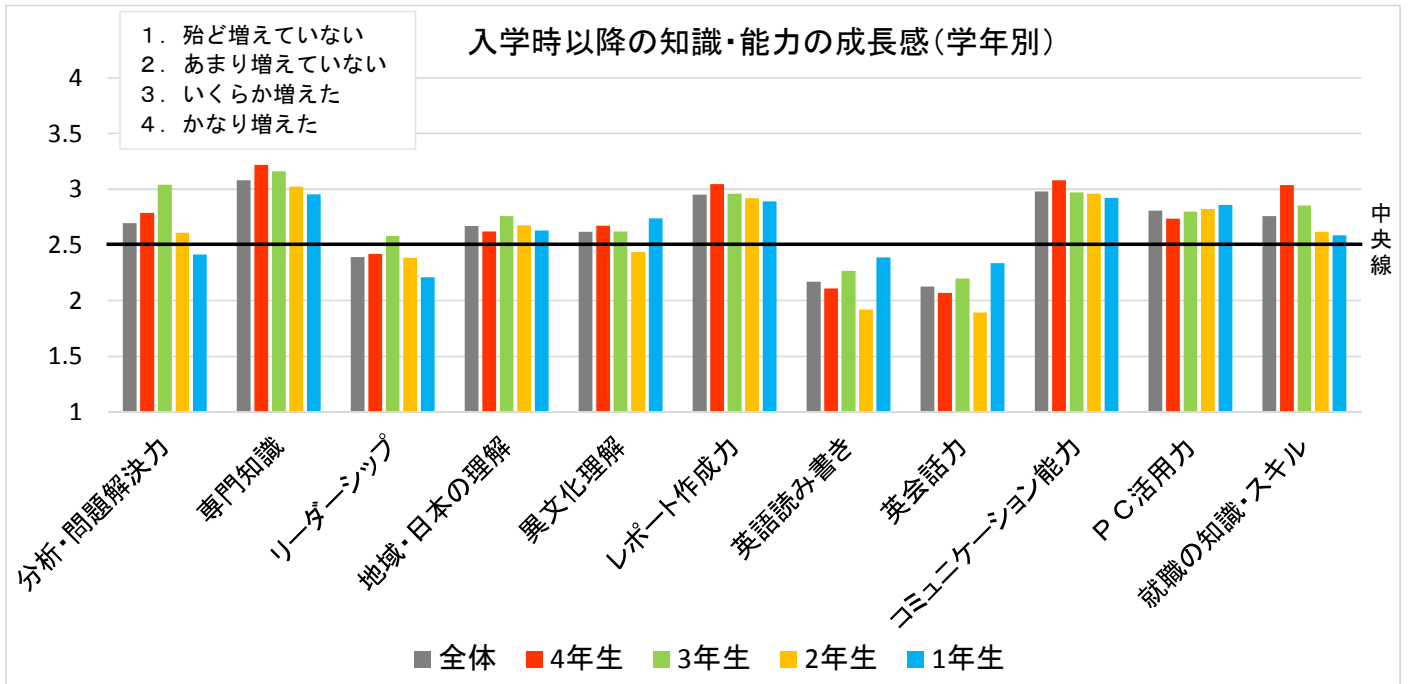
授業外はどのように過ごしているかを尋ねると、多くの学生がアルバイトに多くの時間を充てているようです。全国大学生協連合会の学生生活実態調査(2016年度)によれば、大学生は週平均で2.2日アルバイトに入って12.5時間就労しているといえます。今回は週平均で尋ねていないため明確ではありませんが、毎日3時間以上就労していると考え、本学学生のアルバイト時間は少し長いのではないかと考えられます。一方、本学の学生の予習・復習・課題にかかる時間は1日平均55分前後、読書(漫画や雑誌を除く)にかかる時間は1日平均23分前後です。先の学生生活実態調査の報告で、文系大学学生の予習・復習・課題などの授業外学修は1日平均37.0分、読書は1日平均24.4分ですので、本学学生は勉強に比較的热心に取り組んでいると考えられます。しかし、アルバイトに従事している学生は授業外学修や読書の時間が少ないことが知られていますので、学生の生活・経済状況を考慮しながらも過度なアルバイト就労を控えるよう促していくことは重要だと思えます。



入学後の自己成長感

入学時点から自分の知識や能力がどの程度増えたかを尋ねたところ、専門分野の知識、レポートを書く能力、コミュニケーション能力は平均するとほぼ「3. いくらか増えた」に達しており、本学学生が学生生活や授業を通して、専門的知識や教養を深め、柔軟に相手の考えを聴いたり自分の考えや思いを伝えたりする術を身につけていっていることがうかがえます。

また、学科・専攻・コース別にみるとそれぞれの学生の特色が表れています。特にキャリアイングリッシュ専攻の学生は異文化理解、英語を読み書きする能力、英会話能力、コミュニケーション能力は「3. いくらか増えた」を超えており、キャリアイングリッシュ専攻の学生が国際舞台での活躍を目指して英語力を日々磨いていることを物語っているのではないのでしょうか。

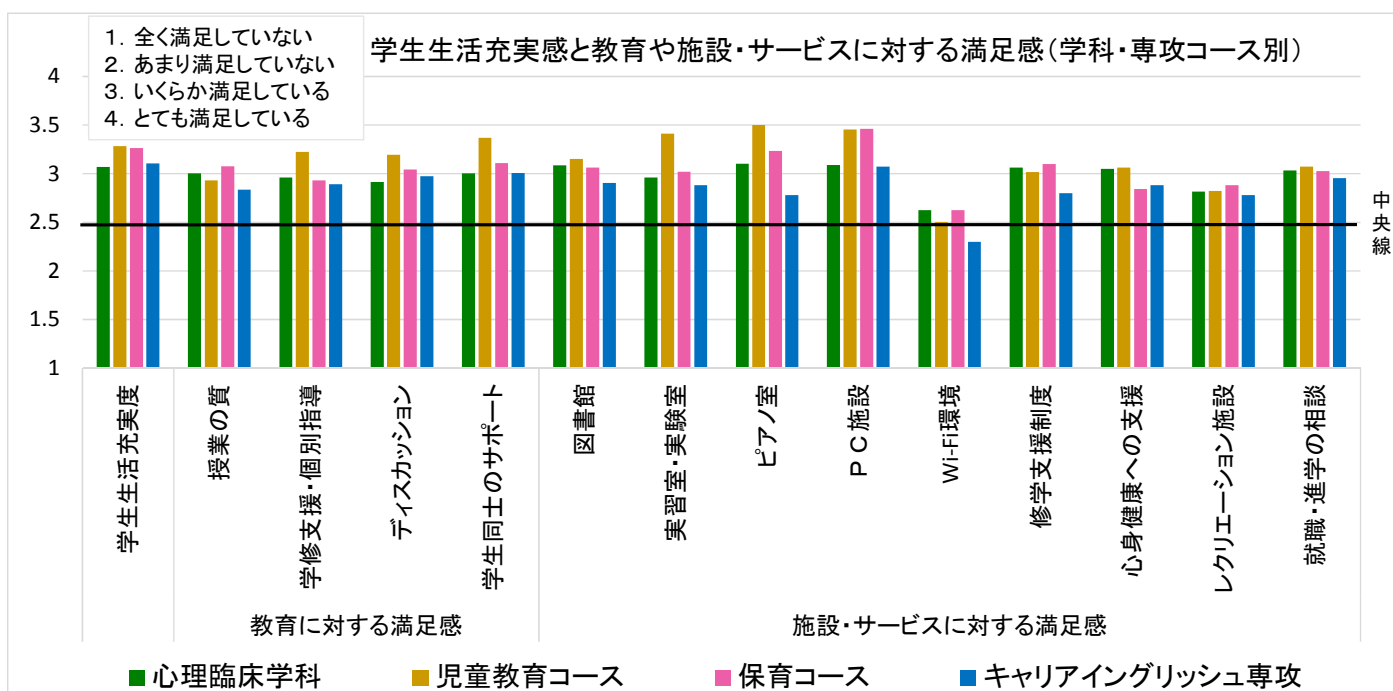
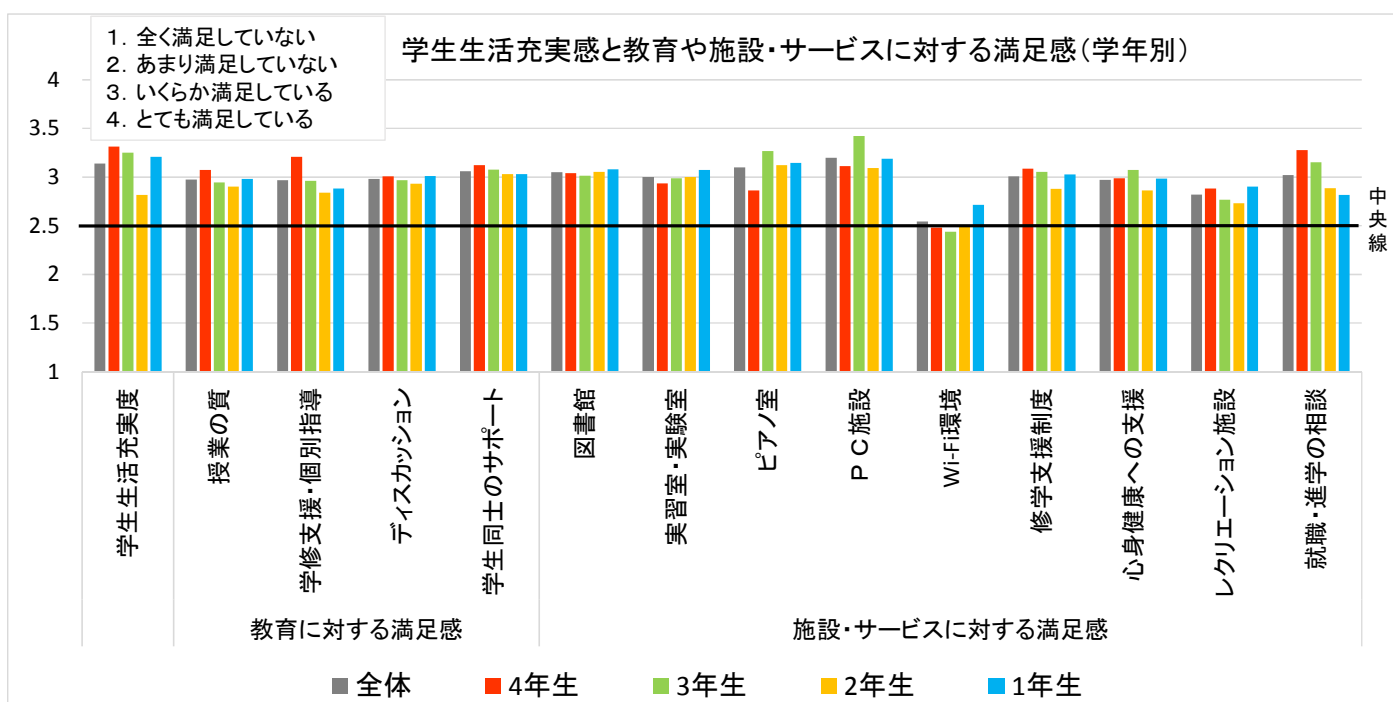


学生生活充実感および教育内容・施設・サービスに対する満足感

本学学生のご生活充実感については、およそどの学年どの学科・専攻・コースでも「3. いくらか充実している」に到達しており、学生生活に虚しさを感じている学生はあまりいないと思われます。しかし、2年生のみ「3. いくらか充実している」に達しておらず、その要因・理由の分析が今後必要です。

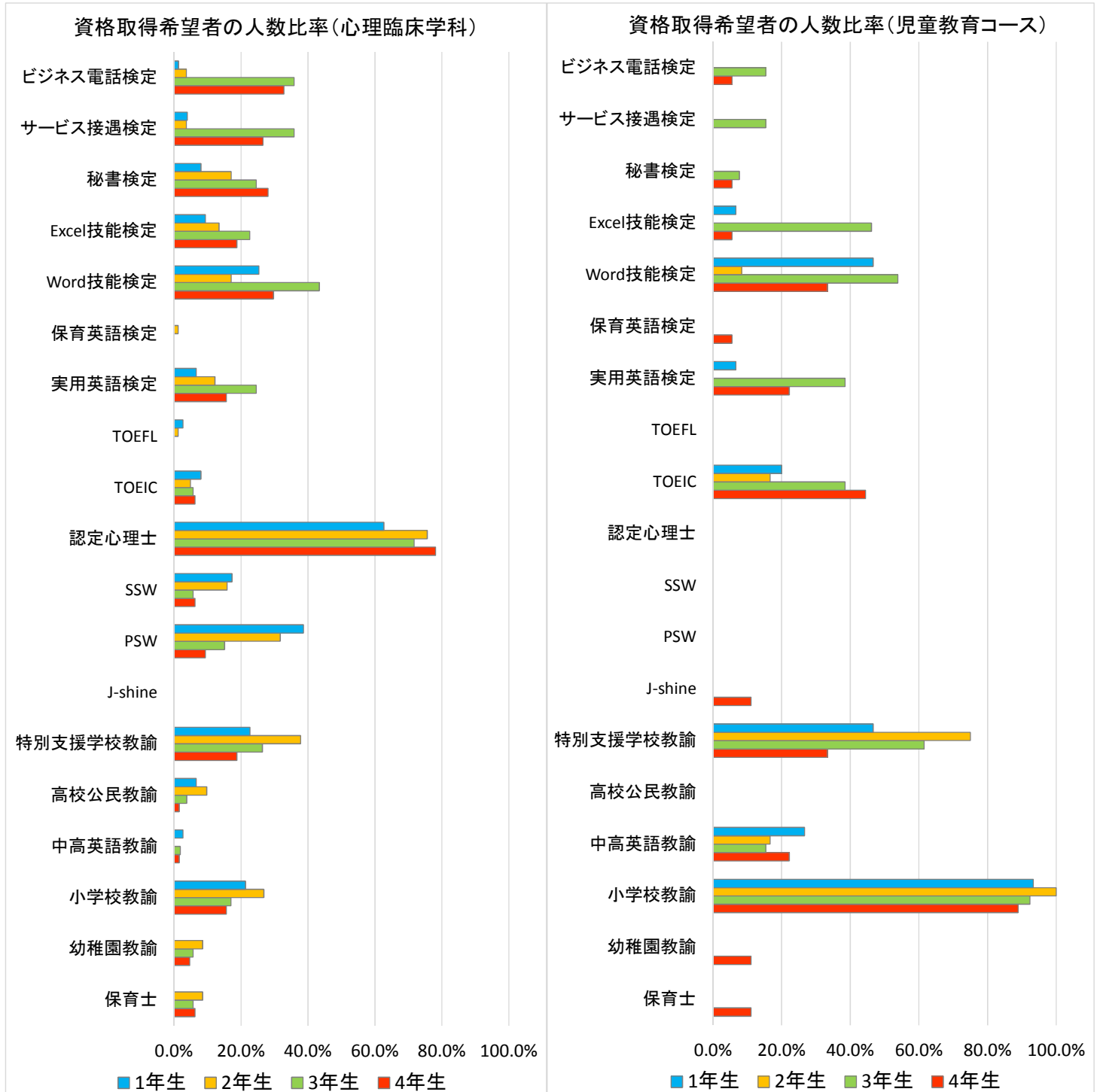
教育内容に対する満足感については、どの学年どの学科・専攻・コースでも評価がほぼ「3. いくらか満足している」にあり、不満を抱いている学生は少ないと思われます。特に児童教育コースの学生は学修支援・個別支援やディスカッションの機会、学生同士がサポートしあう機会に恵まれ、高い満足感を得ているようです。また、授業の質は今後も、自己点検・評価委員会が実施している授業評価アンケートに対する学生の評価や感想を取り入れて高めていかなければならないでしょう。

施設・サービスについては、Wi-Fi環境とレクリエーション施設に対する満足感が低いことが明らかになりました。フリーWi-Fiは学内の特定場所に設置されていますが、学生への周知が必要でしょう。レクリエーション施設については学生が具体的に何を要望しているかを今後確認する必要があります。



取得を目指している免許・資格

本学学生がどのような免許・資格の取得を目指しているのかを複数選択可で尋ねた。学科・専攻・コースで取得可能な免許・資格が異なるため、学科・専攻・コース別に示します。今後、4年生の卒業前に、実際にどのような免許・資格を取得したかを尋ねて、取得率から本学の教育効果を検証していきたいと思ます。



(「取得を目指している免許・資格」のつづき)

